

(資料 3)

開校準備委員会 教育・事務部会報告

1 第8回学校経営部会（10月10日）

（検討内容）

（1）多可中学校と5小学校との「小中連携」について

① 取組方針について

（方針の検討にあたって）

- ・地理的にも広範となる5つの小学校1校ずつとの形での連携のやり方をとった場合、両校間の日程調整や移動方法など小・中学校にとっても、互いに負担が大きくなることが危惧される。特に中学校にとっては1回の連携事業に5回も行うということになり、実際問題実施は難しい。
- ・小中間の交流は、小・中学校にとって互いに学校生活の様子や子どもの状況等を知る良い機会となる。
- ・生徒・教師の交流を通して引継ぎという機会の側面もあり、情報交換の場としても垣根を低くすることになる。
- ・特に不登校傾向にある子どもたちが増えていることを踏まえて情報交換できる場を増やしていくことが大事になる。
- ・学校生活や学習指導などで小・中間での違い等による不安などを取り除くよい交換の場となる。（例えば、水泳授業時の水着をどうするかなど系統的に調整できる）

（取組方針）

上記の意見等を踏まえ、これまでの3中学校間での小・中連携の成果を踏まえ、「中学校への円滑な接続」を目標とすることを方針とする。

①方針：多可町で唯一の中学校となる多可中学校と町内（校区）の5つの小学校との交流・連携をこれまでの取組みの成果を活かして、新たな環境を踏まえ、交流・連携を通して多可中学校への円滑な接続を図る。

②進め方（方法）について

小小連携の取組み（自然学校・環境体験等）による町内5小学校間の児童はさまざまな機会で顔見知り関係を作ってきてている。そのことの成果や少子化による児童数の減少もあり、小学校合同方式による多可中学校との連携が可能であり、「検討にあたって」でていた日程調整や実施上の負担の軽減を図る上でも現実的であることも踏まえ、合同方式中心の小中連携を進めていく。

③連携事業の実施にあたって

多可中学校開校後の学校運営や生徒の生活状況等を押さえながらスケジュール、連携事業内容等について調整していく。（体験入学、入学説明会）

(2) 新中学1年生の学級編成における考え方について

①現状と課題

(現状)

小学校の児童が少子化により年々減少する中で、3中学校統合により1校となり生徒数が増える。その数を基準として学級数が決まる事になる。

(課題)

入学する小学校6年生の児童数を多可中学校の1年生の学級数で単純に分けることになれば、小規模の小学校にとっては、学級に1～3人というような状況になってしまい、学級生活を送る上で大変心細く、不安や孤独感をもつ子どもたちが出てくることが危惧される。

②編成上の考え方

学級生活で不安や孤独感をやわらげるようするために、一律的な分け方ではなく、傾斜方式による弾力的な分け方をすることにより孤独感等の不安や心配をもつ子への配慮を行う。

傾斜方式による学級編成：4つ学級があれば、5つの小学校からの児童が必ずいる考え方からある学級には少ない学校からの子を複数人いるように分ける。

（方法：5小学校間で学級編成数案を検討し、中学校へ報告する。）

③引継ぎ書の様式

編成関してこれまで各小学校において作成されていた児童の引継ぎ書の様式や内容が学校間で違っていることもあり、今年度から中学校から様式を統一したものによる方法で作成を依頼する。

④特別支援学級生の交流学級について

支援学級生の授業の時間割を組む上で、教科配当ができるように同一障害の生徒ごとに配置する学級を設定する。

2 第5回閉校事業部会（11月27日）

（記念行事）

3 中学校の特色や地域の特長を活かしたプログラムづくりを進めて
いる。

学校名	進捗状況
中町中学校	<ul style="list-style-type: none">・閉校記念イベントを、式典の1週間前の2月15日（日）にベルディーホールでの開催に向けて、その事前準備として「校歌合唱」への参加者の募集と練習（2回：12月13日<土>、1月17日<土>）のための案内チラシを校区集落に配布。（50人～60人程度を想定）・案内チラシは、独自に中学校で作成。・記念品として「中町中せんべい」を業者に依頼。「校歌合唱」の準備も含め、12月に実行委員会を開催予定
加美中学校	<ul style="list-style-type: none">・記念事業イベントとして「県警音楽隊」による演奏実演を計画。具体的な進行等についての調整を進めている。・生徒会に当日、記念イベントとして何かできないか投げかけている。・記念品としてクリアファイル、オルゴール（校歌入り）を準備。・校歌の動画を作成し、公開の予定

八千代中学校	<ul style="list-style-type: none"> ・閉校記念印刷物や卒業アルバムの集合写真を使ってスライドショーを作成し、期間を決めて八千代プラザでコーナーを設置する予定。 ・大勢投手（ビデオ）やイベントゲストとの打ち合わせを進めている。 ・「八千代交流広場」の皆さんとの協力のもと炊き出し（豚汁・赤飯）を当日、行う。 ・12月中旬から式典前日までの夜間の時間を決めて、PRとしてイルミネーションを運動場川沿い側のフェンスに設置する。
--------	---

(記念印刷物)

- ・3中学校実行委員会とも全体構成として表紙を含めたA4版の8ページ（カラー）の規格で「感謝・思い出・未来に」を込めて「閉校記念誌」の作成を進めている。
- ・また、アルバム写真や所蔵写真などで見やすい、持っておきたいという記念誌に努めている。

(会計)

- ・3中学校閉校記念事業実行委員会において、当初予算で事業ごとに配分した経費の範囲内で執行できるように進めている。
- ・記念行事終了後、できるだけ早く会計決算を行う予定。

3 第2回3中学校合同職員会議（11月12日）

(1) 第2回3中学校合同職員会議の目的・日程

(目的)

第1回会議での検討・協議の中で、さらに実務的、具体的に細かな事項等について詰めていくことが「より円滑なスタートを切るために必要」であるということから、第1回合同職員会議終了後、各教科等部会を持ち検討・調整を進めた方針・計画等について第3回合同職員会議（1月6日）に提案（最終決定）できるように協議・調整を行う。

(日程)

- ①全大会 ②各教科等担当者会 ③教務・特活・生指他代表者連絡会
- ④校長・教頭連絡会

(内容)

①全大会：(校長) 本会議の目的や本日の協議の要点及び第2回合同会議後の予定や部会の開催について説明する。

※協議の要点：①方針・計画等の点検・修正について協議する。②事前に集約されている各教科等部会に係る質問や意見等（別添資料1）についての回答、取扱いについて検討する。

②各教科等担当者会：11部会に分かれ、これまでに検討・調整された原案についての点検を行うとともに、意見等についての協議を行う。

※十分協議ができない部分については、今後部会を計画し、検討を行う。

③教務・特活・生指他代表者連絡会：学校運営、学校生活や学習面にかかる主たる方針・計画等についての課題等の検討状況についての共通認識を図る。

(2) 第3回3中学校合同職員会議に向けての流れ

①追加協議

各教科等担当者会において原案及び修正案について詰め切れなかった担当者会は、12月5日までの期間において担当者会を開催し、原案（修正案）を詰める。

②修正案点検

担当者会で点検を行い、3中学校の共有フォルダーに保存する。（12月12日まで）

③終案の確認及び質問

各中学校において閲覧し、修正案について点検・確認を行い、各中学校で職員会議を設定して意見等を集約する。（12月25日）

④第3回3中学校合同職員会議開催

1月6日、オンラインで予定

各主担当（7教科等部会）から説明を行う。それ以外の教科等については、共有フォルダーの閲覧により確認する。

（7教科等部会）

- ①教育課程 ②特別活動部会 ③生活指導部会 ④特別支援教育部会
- ⑤キャリア教育部会 ⑥学力向上・研究推進部会 ⑦防災・安全教育部会

(3)各教科等担当者会における検討・調整等にあたって

(検討・調整の方法)

第1段階：3中学校の各教科等の担当者による会において原案を作成する。

第2段階：各中学校において原案にたいする意見・修正等を集約する。

第3段階：3中学校合同職員会議（各部会・全体会）において協議・調整を行い、決定する。